

ご挨拶

「勉強は入試のためにするものではない。将来のためにやるの。」「入試ごときでつまづいてられるか」私は生徒たちにこのように言っています。そして勉強を教えています。

入試のために（入試を目標に）勉強をしてしまったら、入試が終わったら努力が止まってしまうからです。それこそ無意味な勉強ではないでしょうか？

毎年、受験勉強の講座に参加する中3生に「次の3年後は、進学試験や就職試験、さらに厳しい『譲れない試験』があるでしょう？だから、今度は最初からキチンとやっておく。高1のはじめから、キチンと勉強に向き合うの。そうすれば、校内推薦などもあり得るでしょ。」このようなことを言います。さらに、「高校の勉強を理解するためには、中学の勉強をある程度理解しなければ無理だよ。」と。

講習とその成果か、私のもとにはよく「高校に入学しての成績の良さ」の報告がよく届きます。生徒たちはみんな、「受験勉強」より、「将来のための勉強をしたい」のだとつくづく思います。

さらにまた「人生を楽しもう！楽しまなきゃ嘘！」「人生、楽（らく）をしようよ。」と言います。勉強することで「将来が楽しくなる・楽になる」ことに驚くような表情です。が、やがてみんなのチベーションが変わってきます。

さて、上記のように、生徒たちを納得させ、生徒のモチベーションを上げるにはあらかじめ「勉強がもたらす人生への利益」を、生徒たちに伝えておく必要があります。

ほぼ、全員の生徒が「勉強がもたらす人生への利益」を知らないのです。知らずに受験勉強に向き合っています。・・・気合が入らないのも当然かもしれません。

「勉強は入試のためにするものではない。将来のためにやる。」単純で当然な話なのです。

約、半年前1通の年賀状が届きました。「まさ君」からです。内容は「鹿児島大学に進学しました。吉良先生のおかげです」

まさ君は、中3の塾内3者面談の時、親後さんが「この子は勉強ができないから農業を継がせる予定です。そのために熊本農業高校を志してます。」とのことでした。幼いころからそう決めていて、本人も特に抵抗はないようでした。

その子は自然体で講習に参加し、私の話をよく聞いてくれていました。勉強内容の理解は高く、親が勝手に「この子はできない」と思っているだけで、本人も勉強に特に関心がないだけでした。

農業高校に通う中で、何が決定的に「卒業したら農業」というルートを変更したのか分かりませんが、

「・・・先生のおかげです」とは、「勉強がもたらす人生の利益」を伝えたことだと感じています。

私は毎年、勉強がもたらす人生への利益を、偽りなく、説明します。

「勉強は入試のためにするのではない。将来のためにやるものなの。じゃあ、その将来のためとは例えば何？ どんなこと？」

誰も答えられないその「将来のため」の部分をもより具体的に説明しています。

それは、私は生徒たちに「人生を楽しく生きて欲しい。」との思いのみかもしれません。

※最近「発がん性添加物」「抗がん食品」なども、授業の合間に紹介するようになりまして(°Д°)

みんな、是非、楽しく豊かな人生を送って下さい。



のぞみスクール 西原教室長
吉良 伸一郎